

心と体のメンテナンス 2週目

Q 治療はどのように始めますか？

A 前回お話しした通り、カイロはサブラクセーション(背骨の関節のいずれかがずれたことで神経が圧迫され、脳から体の各部位への通信がうまくいけなくなり、様々な痛みや機能障害、免疫力の低下などが起きた状態)を治療する医療行為です。治療を始める時にカイロプラクターにとって最も重要なのは、患者さんの背骨のどの関節がどのような状態にあり、それが神経にどのような影響を与えているかを正しく把握することです。そのためにまず詳しい検査をします。

Q どのような検査をしますか？

A 当院では初診の際に五段階の検査を行ないます。

(1) **Visualization** — まずカイロプラクターは患者さんの状態を目で診察します。小さな姿勢の変化や体の動きにもサブラクセーションの徴候が現れている場合があります。

(2) **Static Palpation** — 次に触診をします。最初は患者さんに静止してもらった状態で、背骨と背中を触って診察し、筋肉や組織に起こっている腫れや痛み、緊張(こり)など正常ではない状態を把握します。

(3) **Motion Palpation** — 静止した状態での触診の後には、患者さんの上体をゆっくりと動かし、様々な角度での背骨の状態を診察します。それによって背骨のどの部分が、どの方向に動く時に支障があるのかをカイロプラクターは確認します。

(4) **Instrumentation** — 触診が終わったら、特殊な計測機器を使ったGonstead(ガンステッド)Systemという検査を行ないます。これはカイロ独特のNervoscope(ナーボスコープ)と呼ばれる機器を使って、背骨の両側の皮膚の微妙な温度差を計測するものです。関節がずれて神経が圧迫されると炎症が起きるなど何らかの異常が起き、背骨の左右に温度差が生じるケースがありますが、その温度差を正確に示すのがナーボスコープです。

このガンステッド・システムは世界的に著名なウィスコンシンのカイロプラクター、ガンステッド医師が、機械エンジニアというバックグラウンドと長期に渡る背骨研究から考案したものです。二本の突起を背骨の両側に当てながら、ゆっくりと移動させて計測しますが、このナーボスコープの扱いには熟練が要求されます。

(5) **X-ray analysis** — 最後にレントゲン撮影をします。当院では患者さんの下顎部分から骨盤全体をカバーする半身を、正面と側面の二方向から撮影します。二枚のレントゲンから背骨の不整列やゆがみ、各関節の傾き、椎間板の状態などを詳細に見ることができます。

以上の五段階の検査を経て、各患者さんのサブラクセーションを診断し、カイロプラクターはそれぞれに見合った治療プログラムを組んでいきます。プログラムはカイロの治療方法や回数だけではなく、体の姿勢に大きな影響を与える日常生活(ライフスタイル)の見直しや、カイロの治療効果をより長く維持するためのエクササイズも含まれます。